大槌町町勢要覧
2014

Message

未来につなげるメッセージ

大槌町
町勢要覧
2014
Message

発行日／平成26年8月
発行・編集／大槌町

〒028-1192 岩手県上閉伊郡大槌町上町1番3号
電話 0193-42-2111㈹　FAX 0193-42-3855㈹
開庁時間／午前8時30分～午後5時15分
休庁日／土日、祝日
http://www.town.otsuchi.iwate.jp/

あいさつ

東日本大震災津波―。あの想像を絶する巨大津波により、多くの皆様が犠牲となられ、歴史や文化を重ねながら築いてきた、かけがえのないふるさとが一瞬にして壊滅するという甚大かつ未曾有の大惨事があった日から二年の歳月が経ちました。

今日まで大槌町に温かい御支援を頂いた全ての方々と、町政に御協力頂いている町民の方々に対し心より感謝申し上げます。

復興元年である平成24年度は、大槌町東日本大震災津波復興計画に基づく四つの基本施策「安全・安心の確保」、「暮らしの再建」、「地域経済の再興」、「教育環境の整備」を掲げプロジェクトを推進して参りました。

同時に、災害の記憶を風化させない事業として、がれきを礎とした「緑の防潮堤」への取り組み、また、官民連携の促進や地域経済の活性化を目的とした「復興まちづくり大槌株式会社」の設立のほか、教育分野では、被災した4つの小学校を統合し、小中一貫教育の導入を決定するとともに、郷土の文化、自然や防災について学ぶ「ふるさと科」を新設するなど、世界に誇れるまちづくりに向け、大槌町独自の試みに着手しております。

本年2月には、大槌港を母港とし、東北地方の海洋調査を行う研究船「新青丸」の進水式が行われ、復興へとスピードを増す大槌町を象徴するかのように、力強く出航いたしました。

平成25年度は復興計画基本計画における「復旧期」最後の年度にあたり、今まで積み上げてきた取り組みが、遂に皆様の目に見える形として動き出す年であります。

「海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある『美しいまち』」を描いてきたキャンバスへ更に深く色づけするべく、次の段階へと歩を進め、今年度を復興加速の一年と定め進んで参ります。

単に、震災前の町に戻すだけの復興ではなく、自ら知恵を絞り、また多方面からも知を集めた創造的な復興を成し遂げた町として、全国のモデルとなり、その姿を皆様にお見せすることが、町長としての私の使命でもあると受け止めております。ふるさと大槌が一日も早い再生を遂げ、より明るい未来へと向かうため、今後も皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

大槌町長　碇川 豊

CONTENTS

町長あいさつ……2

東日本大震災津波と大槌町……4
被災概要

東日本大震災津波と大槌町……6
まちの復旧

支援・ボランティア活動……7

新・大槌町、まちづくりへの第一歩……8

様々な視点から、新たな取り組みにも着手……10

より豊かさを増す大槌のくらし……12
医療・福祉・子育て

連携を深め、大槌の特色を県内外に発信……14

まちを支える産業のいま……15

大槌の宝物……16

おおつちの歴史……18

行政、議会、統計資料……20

姉妹都市・大槌タウンマップ・アクセス……22

東日本大震災津波と大槌町

被災概要

東日本大震災津波による人的被害は、平成25年2月28日現在で、死亡届受理数1230人、行方不明者4人、震災関連死47人となっています。家屋被害は、全壊・半壊3717棟、一部半壊161棟であり、被災棟数は3878棟となっています。農林水産施設、商工業施設や観光施設等の産業被害額は約151億円、道路・海岸施設、上下水道、学校や社会教育施設、役場庁舎や消防署等の公共施設被害が約617億円となっており、産業被害と公共施設被害を合わせた物的被害は約768億円となっています。

大槌町津波浸水実績範囲図

調査地域	最大波
釜石	15時21分 4.2m以上
宮古	15時26分 8.5m以上
大船渡	15時18分 8.0m以上
久慈港	15時21分 8.6m以上

調査地域	最大波
吉里吉里	16.1m
吉里吉里港東側	22.2m
赤浜	12.9m
新港町	12.7m
町役場付近	10.7m
浪板（津波遡行高）	19.1m

参考1）津波浸水高等（国土地理院）
参考2）痕跡高
痕跡高最大13.7m（安渡）（岩手県県土整備部河川課）
参考3）津波浸水面積
4平方キロメートル（住宅地・市街地面積の52%）（国土地理院）

被害の区分		被害	備考
人的被害	犠牲者数	1,281人	平成25年2月28日現在
家屋被害	全壊・半壊	3,717棟	9月28日現在
	一部損壊	161棟	9月28日現在
産業被害	水産業被害	5,127,926千円	水産施設、漁船、養殖施設等
	農業被害	610,000千円	水田、畑、用水路、農道
	林業被害	69,241千円	林野、林道
	商工業被害	8,867,745千円	建物、機械設備、商品等
	観光業被害	384,607千円	観光施設、自然公園
	計	20,231,264千円	
公共施設被害	役場庁舎等被害	9,555,102千円	建物、公用車等
	消防施設等被害	427,364千円	庁舎、機械、装備、消火栓等
	道路・海岸等被害	48,181,244千円	公共下水道等
	上水道施設被害	61,932千円	ポンプ場等
	学校被害	3,044,796千円	建物、設備等
	社会教育施設被害	284,140千円	公民館、図書館、運動場等
	社会福祉施設被害	136,660千円	児童・障がい・高齢者福祉施設等
	計	61,691,238千円	
産業・公共施設被害（合計）		76,750,757千円	

主な被害

人的被害

■人的被害状況

死亡受理数 （単位：人）

地域名	死亡届受理数
町方	665
桜木町・花輪田	22
小枕・伸松	42
沢山・源水・大ケ口	73
安渡	216
赤浜	90
吉里吉里	95
浪板	24
小鎚	2
金沢	1
合計	1,230

犠牲者数 （単位：人）

死亡届受理数		1,230
	身元判明	797
	行方不明	433
行方不明（死亡届未受理）		4
関連死		47
計		1,281

建物・土木・学校

建物被害状況別棟数 ※地震被害含む （平成23年9月28日現在）

被害状況	被害区分	棟数	被災率
流出	全壊	2,506棟	38.5%
1階天井まで浸水	全壊	586棟	9.0%
床上浸水1m＋建物内ガレキ流入	大規模半壊	502棟	7.7%
床上浸水	半壊	123棟	1.9%
床下浸水	一部損壊	161棟	2.5%
被災あり（計）		3,878棟	59.6%
被災なし（計）		2,629棟	40.4%
合計		6,507棟	100.0%

土木関係被害

区分	公共施設 被害箇所	公共施設 被害額
道路	76	1,248,000
橋梁	8	585,000
河川	17	5,750
海岸	107	31,443,494
公共下水道	—	5,000,000
漁業集落環境整備事業	—	2,899,000

学校被災学校数

区分	施設数	被災学校数
幼稚園	2校	2校
保育園	6園	3園
小学校	5校	4校
中学校	2校	1校
高等学校	1校	0校

水産・農林・商工

水産関係被害

区分	被害額（千円）	被害数
被害額合計	5,127,926	—
水産施設	1,177,644	6箇所
漁船	2,204,486	672隻
漁具（定置網）	874,460	3箇所
養殖施設	543,859	540か所
水産物	327,478	1,876t

農林関係被害

区分	被害額（千円）	被害箇所
被害額合計	679,241	—
水田	424,000	10ha
畑	175,000	5ha
用水路	4,000	20箇所
道路	7,000	20箇所
林野	22,500	301ha
林道	46,741	6路線

商工関係被害 （平成24年2月1日現在 調査継続中）

区分	商業関係	工業関係
被害額合計（千円）	14,039,490	
土地（千円）	—	—
建物（千円）	4,405,350	2,102,300
什器備品・機械設備等（千円）	1,793,610	3,643,390
商品・原材料製品等（千円）	995,290	1,099,550
小計（千円）	7,194,250	6,845,240
被災事業所数（事業所）	332	128
被災従業員数（人）	482	720

観光・庁舎

観光施設被害報告 （調査継続中）

区分	計 被害額（千円）	計 被害数（箇所）	自然公園 被害額（千円）	自然公園 被害数（箇所）	観光施設 被害額（千円）	観光施設 被害数（箇所）
被害額合計	384,607		47,436		337,171	
公共施設	244,607	13	47,436	4	197,171	9
上下水道	150,438	4			150,438	4
野営場施設	75,441	7	47,436	4	28,005	3
その他	18,728	2			18,728	2
民営施設	1,440,000	13	1,300,000	1	140,000	12
宿泊施設	1,440,000	13	1,300,000	1	140,000	12

庁舎等被害報告

区分	建物 被害数（箇所）	建物 被害額（千円）	建物以外 被害数（箇所）	建物以外 被害額（千円）	公用車 被害数（台）	公用車 被害額（千円）	合計 被害数（箇所）	合計 被害額（千円）
全壊	127	7,517,511	21	1,742,102	34	59,850	182	9,319,463
半壊	53	224,261	1	11,378			54	235,639
計	180	7,741,772	22	1,753,480	34	59,850	236	9,555,102

大槌町の動き

～大槌町東日本大震災津波復興計画基本計画策定まで～

平成23年3月11日　東日本大震災津波発生
平成23年3月11日　大槌町災害対策本部を設置
平成23年4月1日　総務課内に災害復興室を設置
平成23年5月31日　第1回大槌町震災復興計画準備室
平成23年6月8日　第2回大槌町震災復興計画準備室の開催
平成23年6月9日　第1回大槌町震災復興計画準備委員会
平成23年6月12日～6月17日　第1回大槌町町民懇談会の開催（町内13会場）
平成23年7月5日～7月6日第1回　大槌町町民懇談会の開催（町外への避難者を対象に県内4会場で開催）
平成23年7月12日　第3回大槌町震災復興計画準備室の開催
平成23年7月13日　第2回大槌町震災復興計画準備委員会の開催
平成23年8月4日～8月12日　第1回大槌町町民懇談会（夜間の部）の開催（町内5会場で開催）
平成23年8月29日　碇川新町長就任
平成23年9月30日　大槌町災害復興基本条例の制定
平成23年9月30日　大槌町震災復興基本方針の策定
平成23年10月1日　佐々木副町長就任（10／11より調整担当）
平成23年10月10日　第1回大槌町地域復興協議会全体会を開催・参加者数約500名
平成23年10月11日　高橋副町長（産業振興担当）、石津副町長（復興担当）が就任
平成23年10月14日～12月2日　第1回～第6回地域代表者会議の開催
平成23年10月13日　第1回大槌町復興まちづくり創造懇談会の開催
平成23年10月14日～12月4日　大槌町復興まちづくり創造懇談会アドバイザーによる大槌町内視察、町長との意見交換等
平成23年10月16日　第1回大槌町地域復興協議会の開催
平成23年10月18日　第1回大槌町公共施設計画検討ワーキンググループ※3の開催
平成23年10月20日　第1回大槌町震災復興計画ワーキンググループの開催
平成23年10月28日　第1回大槌町再生創造会議の開催
平成23年10月29日～10月30日　第2回大槌町地域復興協議会の開催
平成23年11月1日　復興局を設置
平成23年11月8日　第2回大槌町公共施設計画検討ワーキンググループの開催
平成23年11月10日　第2回大槌町震災復興計画ワーキンググループの開催
平成23年11月12日　第1回大槌町地域復興協議会の開催
平成23年11月12日～11月13日　第3回大槌町地域復興協議会を開催
平成23年11月18日　第3回大槌町震災復興計画ワーキンググループの開催
平成23年11月21日　第1回大槌町災害復興本部会議の開催
平成23年11月22日　第3回大槌町公共施設計画検討ワーキンググループの開催
平成23年11月24日　第2回大槌町再生創造会議の開催
平成23年11月25日　第2回大槌町復興まちづくり創造懇談会の開催
平成23年11月26日　第2回大槌町地域復興協議会の開催
平成23年11月26日～11月27日　第4回大槌町地域復興協議会の開催
平成23年11月29日　第2回大槌町災害復興本部会議の開催
平成23年11月30日～12月15日　第2回大槌町民懇談会の開催
平成23年12月2日　第4回大槌町震災復興計画ワーキンググループの開催
平成23年12月4日　第2回大槌町地域復興協議会全体会の開催・参加者数約350名
平成23年12月5日　第3回大槌町災害復興本部会議の開催
平成23年12月9日　第4回大槌町災害復興本部会議の開催
平成23年12月13日　第3回大槌町再生創造会議の開催
平成23年12月15日　第5回大槌町災害復興本部会議の開催
平成23年12月20日　第6回大槌町災害復興本部会議の開催
平成23年12月27日　第7回大槌町災害復興本部会議の開催

東日本大震災津波と大槌町

まちの復旧

発災直後から、警察、消防、自衛隊、各団体、ボランティア等、様々な方々の協力により、救出・行方不明者捜索やがれきの撤去を実施してきました。

■生存者救出状況

3月11日の地震発生後、警察、消防等が協力し、道路も通っていないがれきの中を徒歩によるローラー的捜索活動により、救助活動を実施。数百人を救助。

自衛隊合流後も、発災1週間まで生存者救出に注力し、23名の生存者を救出。

■行方不明者捜索状況

3月16日広島県及び島根県警察機動隊約100名が浪板・吉里吉里地区での捜索活動を開始したのを皮切りに、全国警察の機動隊が派遣され、以降、千葉県警察、警視庁、大阪府警察、神奈川県警察等、北は北海道警察、南は九州の福岡県警察の警察官が大槌町に派遣され、行方不明者の捜索活動を継続。

捜索に従事した警察官は、平成23年11月22日現在で、17都道府県30部隊、総勢2381名に上る。

赤浜地区を捜索する福岡県警察機動隊員

栄町内の水路を捜索する北海道警察機動隊員

主な復旧状況（平成24年7月15日現在）

大槌小学校付近

復旧前

復旧後

旧大槌町役場前

撤去前

撤去後

大安タクシー付近

撤去前

撤去後

国道45号付近

復旧前

復旧後

大槌町の動き

～大槌町東日本大震災津波 復興計画基本計画策定以降～

平成24年1月10日　第8回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年1月16日　第9回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年1月17日　第1回大槌町議会全員協議会
平成24年1月20日　大槌町議会政務調査会
～2月24日（随時）
平成24年1月19日　住宅再建に関する意向調査
～27日
平成24年1月23日　第10回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年1月27日　第2回大槌町議会全員協議会
平成24年1月30日　第11回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年2月6日　第12回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年2月13日　第4回大槌町議会全員協議会
平成24年2月19日　第1回国と岩手県の意見交換会の出席
平成24年2月20日　第13回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年3月2日　第5回大槌町議会全員協議会
平成24年3月5日　第14回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年3月15日　第6回大槌町議会全員協議会
平成24年3月17日　大槌町土地利用計画案に関する住民説明会
～21日
平成24年3月22日　第15回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年3月26日　第16回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年4月1日　地域整備部の体制強化
平成24年4月23日　第17回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年4月25日　国との意見交換会の出席
平成24年5月14日　第18回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年5月14日　復興大臣との意見交換会、町内視察
平成24年5月17日　第8回大槌町議会全員協議会
平成24年5月21日　第19回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年5月24日　第5回大槌町議会臨時会
平成24年5月28日　第20回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年6月4日　第21回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年6月11日　第22回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年6月18日　第23回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年6月20日　第1回吉里吉里地域復興まちづくり懇談会
平成24年6月23日　第1回安渡地域復興まちづくり懇談会
平成24年6月25日　第24回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年6月30日　第1回町方地域復興まちづくり懇談会
～7月1日　情報プラザオープン
平成24年6月30日　第25回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年7月2日　国と県の意見交換会
平成24年7月8日　第26回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年7月10日　第27回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年7月18日　第1回沢山地域復興まちづくり懇談会
平成24年7月25日　大槌町復興まちづくり懇談会
～8月3日
平成24年7月30日　第28回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年8月6日　大槌町役場仮庁舎　開庁式
平成24年8月9日　第29回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年8月23日　第30回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年9月4日　防災集団移転促進事業　国土交通大臣同意
平成24年9月5日　第31回大槌町災害復興本部会議の開催
平成24年9月5日　赤浜地区　防災集団移転促進事業　移転先地権者説明会
平成24年9月10日　平成24年度第2回大槌町都市計画審議会
平成24年9月12日　東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター移転計画（案）説明会
小槌・伸松地区　地区内住宅団地希望者説明会
平成24年9月18日　第2回赤浜地域復興まちづくり懇談会
平成24年9月19日　第32回大槌町災害復興本部会議
平成24年9月21日　第2回小槌・伸松地域復興まちづくり懇談会
平成24年9月24日　防災集団移転促進事業　国土交通大臣同意
平成24年9月25日　沢山地区骨格道路整備事業関係地権者説明会
平成24年9月28日　大槌町都市計画震災復興土地区画整理事業の都市計画決定
平成24年9月28日　大槌町都市計画道路の変更の都市計画決定
平成24年10月4日　第33回大槌町災害復興本部会議
平成24年10月24日　第3回赤浜地域復興まちづくり懇談会
平成24年10月28日　第2回安渡地域復興まちづくり懇談会
平成24年11月3日　第2回町方地域復興まちづくり懇談会
～4日
平成24年11月5日　第34回大槌町災害復興本部会議
平成24年11月5日　第2回浪板地域復興まちづくり懇談会・災害危険区域指定に係る説明会
平成24年11月7日　第4回赤浜地域復興まちづくり懇談会・災害危険区域指定に係る説明会
平成24年11月8日　第2回吉里吉里地域復興まちづくり懇談会・災害危険区域指定に係る説明会
平成24年11月9日　大槌町独自支援事業　受付開始
平成24年11月9日　町方（新町、大町の一部、小槌、伸松）地域災害危険区域指定に係る説明会
平成24年11月9日　第3回小槌・伸松地域復興まちづくり懇談会
平成24年11月10日　全地域災害危険区域指定に係る説明会
平成24年11月12日　町方（栄町、須賀町）地域災害危険区域指定に係る説明会
平成24年11月13日　町外まちづくり懇談会
～20日
平成24年11月23日　第3回町方地域復興まちづくり懇談会
平成24年11月24日　第3回安渡地域復興まちづくり懇談会・災害危険区域指定に係る説明会
平成24年11月25日　第5回赤浜地域復興まちづくり懇談会
平成24年12月1日　浪板地域復興まちづくり懇談会　個別相談会
平成24年12月2日　吉里吉里地域復興まちづくり懇談会　個別相談会
平成24年12月20日　災害危険区域に係る住民説明会　惣川地区個別相談会
平成24年12月29日
～30日

支援・ボランティア活動

おおつちの輪

震災後、たくさんの支援、ボランティア活動をしていただき、誠にありがとうございます。

皆様のご支援により、大槌町は新たな一歩を踏み出すことが出来ました。

大槌町は、これからも復興まちづくりを継続して参りますので、皆様方のお力添えをいただけましたら幸いです。

ボランティア活動状況　受入状況（平成24年12月31日現在）

区　　分	平成24年12月実績	総　数
団　体　数	42団体	6,894団体
受　入　人　数	475人	65,713人

写真・資料提供／大槌町社会福祉協議会 復興支援ボランティアセンター、パイオニアグリーンサークル（PGC）

活動支援内容

- 浸水被害住宅の泥出し・家財撤去、がれき撤去、側溝の泥出し
- 炊き出し、イベント運営、ニーズ調査、引越し支援、避難所支援
- 仮設団地での給茶、住環境点検、物資配布　等
- 側溝泥だし
- 海岸清掃（吉里吉里海岸）

大槌町からありがとう！

新・大槌町、まちづくりへの第一歩

大槌町は、一日も早い復興を目指し、復興まちづくり懇談会や個別相談会を町内外で複数回開催し、町民の皆さんと話し合いを重ねてきました。各地区では、津波に対してより安全なまちづくり、将来の少子高齢化に対応できるコンパクトなまちづくりに配慮し、復興まちづくりの将来像【海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある「美しいまち」】をコンセプトに復興まちづくり事業を実施しています。

今後も大槌町では、皆さまと話し合いを続けながら、より具体的なまちづくりに取り組んでいきます。

赤浜地区

町方地区

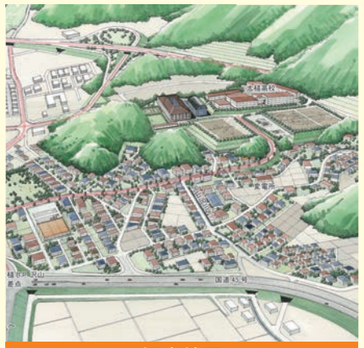
吉里吉里地区

浪板地区

復興まちづくり完成予想図ができました

安渡地区

小枕地区


沢山地区

Pickup 町民による町民のための地域まちづくり

大槌町では復興まちづくり懇談会や「町長とお茶っこの会」、各種ワークショップなどを定期的に開催して、町民による町民のための地域まちづくりを進めています。

また、大槌町では「大槌町復興まちづくり便り」を発行しており、町民の皆様へ復興に向けた都市整備などに関する最新の情報をお知らせしています。

復興まちづくり懇談会

町長とお茶っこの会

復興まちづくりの体系

復興まちづくりの基本的考え方

●津波防災の基本的考え方

「避難する、避難できる」を基本とし、津波による犠牲者を一人も出さない「津波災害に強い安全・安心なまちづくり」を目指します。仮に被災しても人命が失われず被害を最小化する「減災」の考え方とし、①防災教育の推進や防災体制の強化、②防潮堤など海岸保全施設の整備推進、避難路や避難施設等の整備、高台移転や土地の嵩上げ、③住居等の建築制限など土地利用規制等を組み合わせた「多重防災型まちづくり」を取組の基本とします。

●土地利用の基本的考え方

高台移転を基本とします。この場合、高台等ですべての宅地等の確保は困難であることから、今回の津波浸水範囲に盛土することなどによって安全度を高めた宅地等を確保します。また、早期の生活再建を促進するため、公営住宅の建設を優先的に進めます。

●交通体系の基本的考え方

高規格道路として整備される三陸縦貫道が、国道45号が被災した場合の代替ルートとしての機能が確保されるようにします。また、防災拠点機能を有する町の中心部と町内各地域を結ぶ幹線道路について災害時の代替性をもつ交通ネットワークとして整備します。

Pickup 思いをつなぎ、命を守る杜「千年の杜づくり」を開催

平成24年4月に、大槌町浄化センター敷地内で「命を守る森の防潮堤づくり」をテーマに大槌町と横浜ゴム株式会社の共催による「千年の杜づくり植樹祭」が行われました。

この植樹祭には碇川町長をはじめ、細川護熙元首相、細野豪志元環境大臣も参加。大槌町民、町内を訪れたボランティアを含め、約400名が会場に集まりました。

植樹祭では、がれきを混ぜた盛り土の上にシラカシ、山モミジなど16種類の苗木3000本を植樹しました。植樹された木々は、10年後には町民の命を守る森の防潮堤になる予定です。

大槌町は、「がれきはただのがれきではなく、町民の思いが詰まっている。そのがれきを使い防潮堤を作ることで、鎮魂の思いを忘れず、震災を風化させない。」と考えています。

鎮魂の森公園の造成

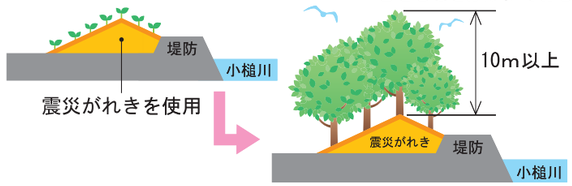
鎮魂の森公園造成事業は、高さ14・5mのコンクリートの巨大な防潮堤の背後に緑豊かな景観環境を創造し、多くの町民の生活の思いや遺品的ながれきを資源と捉え、これを礎とした鎮魂の森公園を臨海部に築くものです。鎮魂の森公園には、鎮魂の鐘カリヨンなどのモニュメントを設置することにより、犠牲となられた多くの方々の記憶を留め、後世にこの災害の記憶を風化させない取組を、永く大槌町から情報発信していきたいと考えています。

また、将来の大災害時において、いかに自分や家族を守るかについて、個人・家庭・職場等で話し合うきっかけづくりの場としても考えています。

断面イメージ

植樹時
約 750 平方メートルの敷地に
およそ 3,000 本の苗木を植樹

10年後
樹木は大きく成長し、
津波エネルギーを減衰
させることが期待できる



様々な視点から、新たな取り組みにも着手

大槌町では復興をかねて日々新しい試みに取り組んでいます。町外からも、さまざまな視点でアドバイスを受け、より良い大槌町を創り上げていきたいと考えています。ここではその主な取り組みの一部をご紹介します。

大学協定

［東京大学］大槌を復興のモデルへ

平成24年3月、復興に向け東京大学と連携・協力に関する協定を結びました。東京大学が特定の自治体と協定を結んだのは初めてとのことで、今後、当町のまちづくりに向けた支援を組織的に行うこととなります。

東京大学濱田純一総長は、あいさつの中で、「大槌町を復興のモデルにしたい。」と述べました。

［明治学院大学］学生によるボランティア活動

平成24年3月、明治学院大学と、「協働連携協定」を結び、同大学の大西学長と碇川町長により協定書が交わされました。

協定内容は、学生によるボランティア活動を中心とした支援をすることで、相互の交流、発展を目的とするものです。

明治学院大学では、震災以後多くのボランティア活動をしていただいており、今後も継続した活動をしてくださいます。

［秋田県立大学］木材を生かしたまちづくり

平成24年5月、秋田県立大学、木材高度加工研究所との連携協定を締結しました。

協定締結にあたり、「木材を生かした世界にほこれるようなまちづくり」を目指しています。

今後の活動としては、仮設住宅団地の敷地内に木橋を設置することが決定しており、その他にも木材の加工に関する機能や人材の育成なども含め、これから支援していただけるとのことです。

［関西大学］IT（情報技術）関連の人材育成

平成24年7月、関西大学とIT（情報技術）関連の起業支援事業を行う連携協定を締結しました。

この協定では、市場が拡大しているスマートフォンのアプリケーション作成を中心として、人材育成と起業支援を行っていきます。この協定に対し関西大学の楠見晴重学長は「IT関連の人材育成、また雇用創出の場となりたい」と述べました。

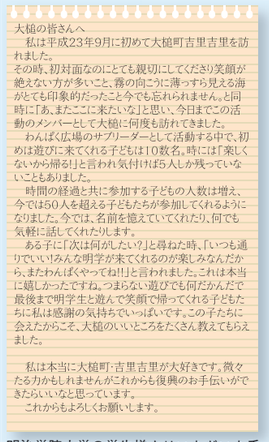
Pickup

［明治学院大学］「Do for Smile @ 東日本」

東日本大震災の直後から、明治学院大学はボランティアセンターを中心とした復興支援プロジェクト「Do for Smile @ 東日本」を立ち上げ、活動を展開してきました。

その中でも、吉里吉里では、さまざまな支援、プロジェクトへの協力、そして、一度は津波ですべて流されかけた「吉里吉里語辞典」をデジタルデータで復元し、データベース化するなど、吉里吉里の文化そのものを復興し、将来に繋げてゆく作業にまで、ボランティア活動の幅は広がり、また深まっています。

（明治学院大学ホームページより一部引用）



大槌の皆さんへ

私は平成23年9月に初めて大槌町吉里吉里を訪れました。
その時、初対面なのにとても親切にしてくださり笑顔が絶えない方が多いこと、霧の向こうに薄っすら見える海がとても印象的だったこと今でも忘れられません。と同時に「あ、またここに来たいな」と思い、今日までの活動のメンバーとして大槌に何度も訪れてきました。

わんぱく広場のサブリーダーとして活動する中で、初めは遊びに来てくれる子どもは10数名。時には「楽しくないから帰る!」と言われ気付けば5人しか残っていないこともありました。

時間の経過と共に参加する子どもの人数は増え、今では50人を超える子どもたちが参加してくれるようになりました。今では、名前を憶えていてくれたり、何でも気軽に話してくれたりします。

ある子に「次は何がしたい?」と尋ねた時、「いつも通りでいい!みんな明学が来てくれるのが楽しみなんだから、またわんぱくやってね!!」と言われました。これは本当に嬉しかったですね。つまらない遊びでも何だかんだで最後まで明学生と遊んで笑顔で帰ってくれる子どもたちに私は感謝の気持ちでいっぱいです。この子たちに会えたからこそ、大槌のいいところをたくさん教えてもらえました。

私は本当に大槌町・吉里吉里が大好きです。微々たる力かもしれませんがこれからも復興のお手伝いができたらいいなと思っています。

これからもよろしくお願いします。

明治学院大学の学生様よりいただいた手紙の1枚

［関西大学］「KAI-OTSUCHI」「SHIP」

社団法人 KAI-OTSUCHIの町内のアプリ制作未経験者が、iPadアプリ「インディアンの森（電子書籍）」をリリース。

社団法人KAI-OTSUCHIとは、関西大学と大槌町の協定による自律的復興支援プロジェクト、SHIP（Sledge Hammer Inspiration Project「すすめ!大槌プロジェクト」）は大槌町にIT人材を育成して雇用を創出することを目的としたプロジェクトです。

今後もITを中心に人材育成などを展開する予定です。

大槌の復興から世界へ広がる海洋研究

「東北マリンサイエンス拠点」づくりにむけて

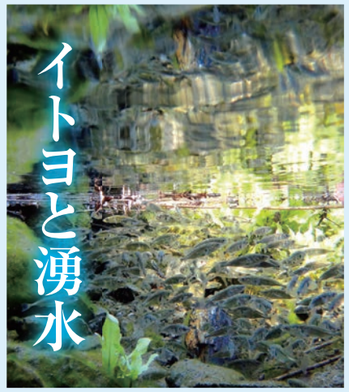
平成24年1月から、「東北マリンサイエンス拠点」形成事業がスタートしました。漁業の復興へ大きな効果期待されるこの事業について、中心となる国際沿岸海洋研究センターに事業の概要を訊きました。

「東北マリンサイエンス拠点」づくりとは?

「東北マリンサイエンス拠点」形成事業は、文部科学省の予算措置によって平成24年1月よりスタートしました。

これは、地震と津波が沿岸海洋生態系に及ぼした影響を把握し、その変動機構を解明するとともに、科学的なデータに基づいて漁業復興を支援していこうというものです。東北大学（代表機関）、東京大学大気海洋研究所（副代表機関）、独立行政法人海洋研究開発機構（副代表機関）の三組織が中心となり、今後10年間に渡って緊密な連携のもとに調査・研究活動を実施します。

大気海洋研究所は、岩手県大槌町の国際沿岸海洋研究センターを拠点とし、生態系のメカニズムを総合的に明らかにしていくことを目指しています。学術研究船をも駆使して学際的なアプローチを縦横に活かし、学内外の研究者の力を結集します。



イトヨと湧水

明治42（1909）年、今の御社地周辺に鮭の孵化場が創設されました。岩手県では二番目に古い歴史となっています。昭和8（1833）年の津波によってこの孵化場は破壊され、その後湧水豊富な源水に移設されました。鮭の孵化事業には、水温が一定である湧水が必要とされていることから、湧水を利用しています。

この源水の湧水に、淡水型イトヨが生息しています。平成11（1999）年1月、総合研究大学院大学の共同研究会が大槌町で開かれ、源水に生息するイトヨが注目されることとなりました。その後、大槌町は調査体制を整え、海水に多く含まれるストロンチウム同位体が耳石に含まれていないことから、極めて貴重な淡水型のイトヨであることが判明しました。この研究会には秋篠宮殿下が参加され、後年開催されたイトヨシンポジウムの折などにもご視察されています。

今回の東日本大震災津波により、新たな「種」の出現かどうかの調査が行われています。研究者によると、源水に生息していた淡水型イトヨが津波によって、町方の湧水に引き込まれ棲みつき、川に遡ってくる「遡河型イトヨ」との交雑が起きているとのこと。本来、交雑しないはずのイトヨ同士が交雑するという、世界でも極めて希有な「存在」であるとしてその進化の過程が注目されています。

復興まちづくり大槌株式会社

大槌町では、住民の皆様をはじめ関係機関の皆様と協働し、一日も早い復興に向け鋭意取り組みを進めておりますが、その一方で縮小する経済社会に対応した取り組みも求められています。このような中、震災以前より経済基盤の脆弱な当町が持続可能な地域経済・社会を実現するためには、震災からの復興は無論のこと、さらにその先を見据えた取り組みが求められています。

こうしたなか、町の100％出資により平成25年3月1日付けで「復興まちづくり大槌株式会社」を設立いたしました。

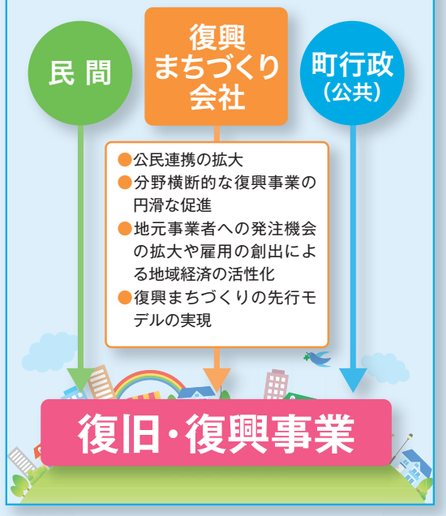
まちづくり会社を設立する意義は、市場の厳しい目を通じて近隣市町村よりも競争力のある事業を構築し、持続可能な地域を実現することにあります。その一方で、今、現実に大槌町に起きている事象を的確に把握し、すぐに実施可能な事業を迅速に構築し、実行していく使命も持っています。現在厳しい生活を強いられている地元事業者の皆様に積極的な投資を強いるよりも、まずは地元で雇用や漁業・農業などの取引を生み出す基盤となる産業を優先して投資・開発していくことが復興まちづくり大槌株式会社の役割であると考えます。

大槌町としては、この復興まちづくり大槌株式会社を中心に住民の皆様、関係機関の皆様と協働のうえ、持続可能な地域経済・社会の実現に向け不退転の覚悟で各種取り組みを進めてまいります。

●商号・社名／復興まちづくり大槌株式会社　●所在地／〒028－1115 岩手県上閉伊郡大槌町上町1番3号　●設立年月日／2013年3月1日
●代表取締役　碇川豊（大槌町長）　●取締役兼部長　澤田彰弘（総合政策部長）
●従業員／スタッフ3名（予定）　●株主／大槌町（持株比率95．3％）、宮古信用金庫（同4．7％）※H25．3月末時点

設立意義

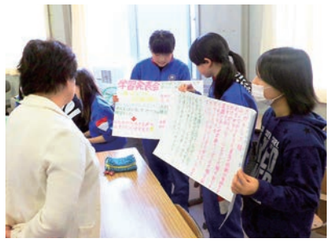
復興事業を早期に軌道に乗せるため、行政をサポートし、官民連携及び民民連携を促進・調整する役割を担うこと。



より豊かさを増す大槌のくらし

大槌町では、すべての子どもたちの豊かな「育ち」と確かな「学び」を実現するため、小中一貫教育を導入します。これは、義務教育にあたる九年間の系統性を大切にし、小学校と中学校のスムーズな接続をめざすとともに、学校・保護者・地域が一体となって連携・協働しながら進めていくものです。平成25～26年度を試行期間とし、平成27年度には本格的に導入していく予定です。

その小中一貫教育の取り組みの一つとして、特設の科目でふるさとを学ぶ「ふるさと科」を全学年に設置します。



「ふるさと科」は文部科学省の特例校指定を受けました

「生きる力」
命やものの大切さと人の絆の大切さを受け止め、人としてのあり方や自らの生き方を考え見つめる。

「ふるさと創生」
地域復興をめざすふるさとの中で自らの役割や責任を考え、ふるさとを支える担い手になる。

ふるさと科でねらうもの

「生き方」を基盤とした教育内容を構成し、地域や自分の生き方を見つめ、大槌町の復興発展を担いうる人材を育成をします。

地域への愛着

生き方、進路指導

防災教育

ふるさと科の三つの柱

●地域への愛着
- 地域の歴史や特産をまなび、地域社会への関心を高め、主体的にかかわる態度を育成する。
- 郷土の文化・郷土芸能を学び、郷土への愛着心を高める。
- 町の復興発展をとらえ、ふるさとの将来像を見つめる。

●生き方・進路指導
- 郷土の産業や経済を学び、生き方や進路を考える。
- 復興をめざす地域社会の中で自分の役割を理解し、将来を切り開く能力を育成する。
- 地域や多様な企業・団体と連携した職場体験により、生き方を実現しようとする態度を育成する。

●防災教育
- 郷土の自然・地形や災害、防災体制の意義について理解を深め、災害時や防災に対しての主体的な判断力と実践力を育成する。

Pickup

ふるさと科にむけた取り組みがはじまりました

吉里吉里中学校 郷土芸能発表会

各小中学校ではふるさと科へつながる取り組みが始まりました。

吉里吉里中学校では郷土芸能発表会が行われ、テーマは、郷土芸能「神楽・鹿子締り・虎舞」とし、保存会や講師の方々の指導のもと、地域の文化・郷土芸能を学びました。

このように、ふるさと科では地域の皆様が先生役となって、子ども達の地域への愛着を育てていきます。

医療・福祉・子育て

保健・医療・福祉

町民の生涯を通じた健康づくりに向けて一貫した体制づくりを行い、また、意識啓発活動を推進します。医師の確保など地域医療体制の充実のための要請運動や関係機関との連携を強化します。

すべての町民が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう関係機関との連携を強化し地域での組織づくりやボランティア組織の育成を図り、支援体制を構築します。

また、在宅での介護と併せて身近な地域における介護施設整備への支援を図ります。

障がい者の地域での自立した生活を支援するため相談センターを設置し、介護サービスを提供します。障害に応じた障がい児に対する支援体制を整備し、必要に応じたサービスの提供を図ります。

児童の健全育成に向けて、相談体制の整備に努め、将来を見据えた保育事業を図るため、保育所再編を進めます。

生活困窮者などに職業訓練・就職などを斡旋して自立支援を行うとともに民生児童委員など関係団体との連携による支援体制づくりを推進します。

町内会などの地域の団体と連携を強め、意識啓発やリーダー育成など、防犯交通安全活動を推進します。

健康づくり・国民健康保険

一人当たりの医療費が増加する中で、被保険者数の減少などにより保険財政は厳しい状況にあることから、医療費及び予防に重点を置いた特定健康診査などの保健事業を充実させることにより、医療費の適正化を図り、健全な保険財政の堅持に努めます。

岩手県立大槌病院仮設診療所

津波で大きな被害を受けた岩手県立大槌病院が、平成23年6月に仮設の診療所が完成して診療を始めました。

新たに完成した診療所は、日本災害医療ロジスティック協会（東京都）が提供した広さ約460平方メートルのプレハブ。診療室や検査・処置室、事務室のほか、エックス線撮影室も備えています。

まちが紹介する介護福祉サービス

■介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
- ●特別養護老人ホーム三陸園
- ●特別養護老人ホーム らふたぁヒルズ

■介護老人保健施設（老人保健施設）
- ●医療法人あかね会介護老人保健施設 ケアプラザおおつち

■通所介護（デイサービス）・介護予防通所介護
- ●大槌町デイサービスセンターはまぎく
- ●ゆーらっぷ指定通所介護事業所

■訪問介護・介護予防訪問介護
- ●大槌町社協指定訪問介護事業所

■訪問入浴介護・介護予防訪問入浴介護
- ●大槌町社協指定訪問入浴介護事業所

■訪問看護・介護予防訪問看護
- ●ふれあいおおつち訪問看護ステーション

■通所リハビリテーション・介護予防通所リハビリテーション
- ●医療法人あかね会介護老人保健施設 ケアプラザおおつち

■短期入所生活／療養介護・介護予防短期入所生活／療養介護
- ●医療法人あかね会介護老人保健施設 ケアプラザおおつち
- ●ゆーらっぷ指定短期入所生活介護事業所
- ●らふたぁヒルズ指定短期入所生活介護事業所

■福祉用具貸与・介護予防福祉用具貸与
- ●南部屋産業株式会社NBS福祉サービス普及会

■福祉用具購入費・介護予防福祉用具購入費
- ●南部屋産業株式会社NBS福祉サービス普及会

■認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護
- ●グループホーム　城山の杜

■認知症対応型通所介護・介護予防認知症対応型通所介護
- ●デイサービス 城山の杜

■小規模多機能型居宅介護
- ●旧多機能ケアセンターほっと大町（名称は現在未定）

■障がい施設
- ●四季の郷、相談支援事業所 四季
- ●わらび学園　●ワークフォローおおつち

まちが紹介する子育てサービス

- ■大槌町立安渡保育所
- ■大槌保育園
- ■吉里吉里保育園
- ■堤乳幼児保育園
- ■大ケ口保育園
- ■みどり幼稚園
- ■おさなご幼稚園
- ■大槌町託児所

連携を深め、大槌の特色を県内外に発信

大槌町では、企業誘致の推進のため、工場等を新設・増設する費用の一部補助や、固定資産税の課税免除、雇用奨励金などの優遇制度を設けています。

県においても、町の申請に基づいて特定区域を指定し、課税免除や大型補助を受けられるようにしています。町と県の充実したフォローアップ体制により、既に数社の企業がこのような制度を利用し成果を挙げています。

［株式会社伊藤商店］

株式会社　伊藤商店は、昭和10年より続く会社で、当町でもトップクラスの魚介類取扱高を誇ります。津波により大被害を受けましたが、町内水産加工業者では最も早い4か月後の7月より営業を再開しました。

同社は、震災以前より水産加工業、冷凍冷蔵保管業、小売業と幅広く営業を行っており、今後の水産業振興、特にも流通分野、外来船誘致等、水産業全体への振興が期待されています。「大槌町の水産業を盛り上げたい。」と伊藤常務は語っておられました。

［平庄株式会社］
水産加工業の新規参入

大槌町と釜石市大平町の水産加工業者平庄㈱が企業立地協定を結びました。震災後初となる水産加工業の新規参入により、町の水産業復興にとって大きなはずみがつきそうです。

平庄㈱は、安渡3丁目の魚市場付近に工場を整備する予定です。地元で水揚げされた魚介類にこだわり、高度な衛生管理の下、高鮮度商品の生産を目指します。また、廻船問屋も兼業していることから、積極的な漁船誘致を展開することで大槌町の水産加工業生産額向上が期待できます。操業は来年の10月予定で、約20人の新規雇用を創出する見込みです。

［株式会社ナカショク］

株式会社ナカショクは平成11年より創業を開始し、大槌町の海の幸を生かした冷凍食品を製造販売しています。

津波により全ての工場が被災しましたが、現在、工場の着工まで至りました。

現在着工している新工場は、ハセップ対応や新しい冷凍技術のプロトントンネルフリーザー・凍結庫を導入しており、今後も皆様の食卓へ、安全、安心の冷凍食品をお届けしていきます。

［株式会社千田精密工業］

株式会社千田精密工業（本社：奥州市）大槌工場は平成７年より操業を開始。

大槌工場では、半導体大槌を拠点に活躍する企業＆研究所製造装置や液晶基盤製造装置部品の中でも大型のものの加工を、マシニングをはじめ、旋盤、溶接の工程により行っています。

同社は平成17年、英国ＴＷＩ社が開発した「摩擦攪かく拌はん接合」技術の使用ライセンスを日本の中小企業としてはじめて取得、また、平成18年には、経済産業省の「元気なモノ作り中小企業三百社」に選定されました。

［株式会社エノモト］

昭和37年の創業以来培ってきた高い精密金型技術を活かして、エレクトロニクス関連のものづくりを多岐に支えている株式会社エノモト（本社：山梨）。

同社が大槌に工場を新設したのは、平成９年。現在、大槌工場の主な事業は、半導体用のコネクタ用部品などの金属プレス加工品で、これに使用する金型も製作。

携帯電話メーカーをはじめ多様な分野の顧客企業から提供される製品設計図を基に製品化を行い、品質・納期ともに安定的な納品を実現しています。

まちを支える産業のいま

東日本大震災は、大槌の産業にも大きな損害をもたらしました。大槌町の復興には産業の回復が欠かせないため、課題も多いなか、日々復興に向けての取組みが行われています。

［水産業］

左の表は、大槌の基幹産業である水産業の復興状況です。

大槌町漁業復興状況　平成25年3月1日

種　別	被害など
漁業協同組合	新おおつち漁業協同組合　設立：H24年3月1日
	組合員数281名（正組合員数264名、準組合数17名）
魚市場	H24.9.5：大槌魚市場水揚開始
定置網	H23：沖野島定置網整備済　1ヶ統
	H24：沖野島定置替網
	H25：野島・長越定置網整備予定、3ヶ統復旧予定
定置船	H23：定置船4隻　応急修理
	H24：新造船（19ｔ）2隻　建造着手
	H25：新造船2隻就航予定
漁船	H23：被害672隻　復旧計画数280隻
	H24：復旧数264隻　（H25年2月28日現在）
ワカメ養殖	H23：被災棚数400台　復旧数197台
	H24：復旧数227台　復旧予定数計250台
	※水揚数量　H22:365.9ｔ　H24:197.2ｔ
ホタテ養殖	H23：被災棚数374台　復旧数72台
	H24：復旧数112台、復旧予定数122台
	※水揚数量　H22:244.4t　H24:25t
カキ養殖	H23：被災棚数32台　復旧数47台
	H24：復旧数47台　復旧予定数56台
	※水揚数量　H24:29.7ｔ
ホヤ養殖	H23：被災数72台　復旧数0台
	H24：復旧数29台　復旧予定数34台
	※水揚数量　H22:80ｔ　H24:0ｔ
経営体数	わかめ養殖：55経営体→21経営体
	ほたて養殖：50経営体→12体経営体
	かき養殖：6経営体→13経営体
さけ関連施設	H23：源水ふ化場（部分復旧）放流数約10,000千尾 ※H22:30,800千尾
	H24～H25　源水川ふ化場復旧（増設）予定
アワビ漁	H22：水揚量　10,837.2kg
	H23：水揚量　2,577kg
うに漁	H22：6,248.8kg
	H24：水揚量　2,094kg（H24年8月31日現在）
こんぶ漁	H24：79.8ｔ（H24年8月31日現在）

［農業］

●概要（大槌町の主な作物作付面積）●水稲／99ヘクタール　●上記のうち、酒米／10ヘクタール　●ピーマン／1ヘクタール　●そば／3ヘクタール

●農業復興に向けて

大震災の津波により、農地を被災された方、機械を流失された方が集まり、「大槌町地域農業復興組合」を結成しました。

当初は、農地の瓦礫除去などの共同作業から始まり、イチゴの高設栽培を開始するまでに至りました。町内での、高設栽培は初の試みであり、今後規模を拡大し、産地形成を目指します。

●沿岸営農拠点センターの整備

大槌の営農拠点として、産直施設と研修施設などが一体となった施設を整備します。地元で採れた野菜などを販売し、町内はもちろん、町外の方々にも大槌をＰＲする場としての位置付けを目指します。

また、新たな特産品や加工品などの開発を関係団体と協力し、進めて行きます。

●特産品

・町特産の野菜として第一にピーマンが挙げられます。主に系統出荷での流通で、多方面から高い評価を得ています。

・大槌で生産された酒米を原料とした「ゆめほなみ」が、好評で、お酒好きの間で人気となっています。

・地産地消の取組みとして、地元で生産されたゾバを町の店で食べられるよう、農業者、飲食店、関係機関と連携して取り組んでいきます。

［林業］

●概要

大槌町の森林面積は、町有林788ヘクタール、民有林8010ヘクタール、国有林9018ヘクタール、合計17816ヘクタールとなっており、町の面積の88パーセントを占めている、貴重な資源です。

また、樹種は、主に杉、アカマツ、カラマツです。

●地域材の活用

公共建築物等における地域産木材の利用を促進し、林業の再生を通じた森林の整備・保全に加え、再生産可能な資源である木材を使用することによる低炭素社会の実現、さらには森林の有する多面的機能の持続的な発揮による「安全・安心な暮らし」、「地域経済の活性化と雇用の創出」、「地球温暖化防止と循環型社会の形成」に貢献することを目指します。

●特産品（しいたけ）

現在、大槌町では東京電力福島第一原子力発電所事故の影響でしいたけの出荷が制限されていて、その解除に向け、生産者と町で協力し合い作業を進め、生産環境の整備を進めています。

Pickup　シーサイドタウンマスト

以前から大槌町で便利さを提供し、にぎわいを見せた複合型のショッピングモール「シーサイドタウンマスト」も、津波により非常に大きな被害を受けましたが、リニューアルを伴い、平成23年12月に営業を再開しています。

また、「大槌町復興まちづくり情報プラザ」をシーサイドタウンマスト2階にオープンしました。地域ごとのまちづくり計画や住宅再建制度、復興スケジュールの情報をパネルや模型、３Ｄ映像で紹介しています。

Pickup　福幸きらり商店街

平成23年12月に大槌北小学校の校庭にオープンした仮設商店街です。町内の小学生が名づけた、『福幸きらり商店街』には、スーパー、飲食店、弁当店、美容室など生活に密着したさまざまな店舗が入っており、連日多くの町民に愛用されています。

大槌の宝物

食材の宝庫、大槌。
そしてこれからも伝えていく大槌の文化を紹介します。

【海の恵】

東日本大震災津波によって、被害を受けた世界三大漁場、三陸、そして豊かな自然。現在、津波で被害を受けた大槌の恵は、私たち人間の力以上に、自然が日々その美しさを取り戻してきています。

【川の恵】

●アユ ●ヤマメ
●イワナ

Pickup 大槌のワカメは絶品

震災で打撃を受けたワカメの収穫も平成25年3月から2年ぶりに再開しています。

「大槌のワカメは絶品」という声が、また聞こえるようになりました。

■その他主な海産物
●鮭 ●ドンコ ●アナゴ ●サバ ●いくら
●海藻類 ●しうり貝（ムール貝）
●ほたて ●かに ●ホヤ ●カキ　など

【地酒】

Pickup 銘酒「浜娘」

明治29年創業の町内唯一の酒蔵・赤武酒造株式会社も、震災で酒蔵を失ってしまいました。

しかし「大槌町は負けない！赤武酒造は負けない！」を胸に、現在は岩手県盛岡市に酒蔵をかまえ、大槌の豊かな海の幸をあわせて一献もてなすには絶好の地酒、銘酒「浜娘」を造り続けています。

【大地の恵】

Pickup 復興イチゴでおおつちに元気を

被害を受けた農業者で「大槌町地域農業復興組合」を結成。農業復興に向けた活動を実施し、平成24年度より農地にイチゴ栽培用のハウスや資材などを設置しました。

大槌でイチゴの栽培は非常に珍しく、県の機関から技術的なアドバイスや、他の市町村で栽培している農家への視察などで栽培方法を学びました。

品種は、「紅ほっぺ」と「さがほのか」。消費者からも「甘くておいしい」と評判も上々です。

■その他主な農産物
●しいたけ ●まつたけ
●酒米 ●そば ●山菜
など

【お土産、加工品】

南部鼻曲り新巻鮭

江戸時代。江戸の人々の大きな好評を得た「南部鼻曲がり鮭」を世に送り出したのは、幕府開府当時の大槌城主・大槌孫八郎でした。彼は爆発的に人口が増えた江戸の市場に着目し、それまで地元でのみ消費していた名産の鮭を塩引き（新巻）にして、江戸へ出荷したのです。上質の素材を加工して商品価値を高め、経済流通させたことは、まさに孫八郎の慧眼によるものでした。

■その他主な加工品
●銀鮭 ●塩蔵ワカメ
●いかめし ●いくら

【芸能・イベント】

秋の大槌を彩る「大槌まつり」の華のひとつ、虎舞。この勇壮な舞いの起源には諸説があるが、前川善兵衛による交易を契機として大槌にもたらされたと伝えられています。

その後、虎舞は、航海の安全を祈願するものとして、海の男たちによって代々受け継がれてきました。毎年の祭りの日には神輿や大神楽などとともに人々をまちに呼び込み、見る者の心をもひとつにします。

①**虎舞**（安渡虎舞・城山虎舞・向川原虎舞・陸中弁天虎舞・吉里吉里虎舞）
②**鹿踊り**（白澤鹿子踊・金澤鹿子踊・上京鹿子踊・吉里吉里鹿子踊・徳並鹿子踊）③**神楽・大神楽**（安渡大神楽・金澤神楽・吉里吉里大神楽・城内大神楽・中須賀大神楽・浪板神楽・浪板太神楽・花輪田神楽・松の下大神楽）その他（雁舞道七福神・吉里吉里鶏子舞・浪板牛方節）

大槌稲荷神社神輿渡祭典、小鎚神社神輿渡祭典

平成24年9月、大槌稲荷神社神輿渡祭典、小鎚神社神輿渡祭典が行われ、参加者と見物客でにぎわいました。町への愛情、復興への願いを乗せた神輿は、威勢のいい掛け声とともに、無事に町内を歩き終えました。

おおつち鮭帰願祭

平成24年12月、震災後2度目となる鮭帰願祭が開催されました。

また、今年は、震災後初めてとなる鮭のつかみどりを開催。今年は会場内にプールを準備しました。プールの中を泳ぎ回る鮭を掴もうとする子どもたちの声が会場を活気づけました。

海の男たちの心を捉え、受け継がれる虎舞、そして虎舞の枠を超えた地域活動。震災を乗り越え、大槌をつなぐ。

大槌町地場産品復興プロジェクト「立ち上がれ！ど真ん中・おおつち」

立ち上がれ！ど真ん中・おおつちは、有限会社浦田商店、芳賀鮮魚店、小豆嶋漁業株式会社、株式会社ナカショクの代表4人が集まり、震災でダメージを受けた水産加工業の復興を目指しスタートしたプロジェクトです。

大槌町地場産品復興プロジェクト　岩手三陸海岸　立ちあがれ！ど真ん中・おおつち　岩手県大槌町

Pickup TRS食品有限会社

東日本大震災津波によって、建物は屋上まで浸水しましたが、それでも建物の外郭が残りました。

これをみてこの建物を再利用することに決め、今年から、屋号を「潮風堂」と銘々し北部三陸（岩手県沖）を産地とする原料魚を主に使用した　水産加工食品販売をしております。

大槌町から歌声を発信 臼澤みさきさん

大槌町出身の臼澤みさきさんが平成24年、歌手デビューし、『第45回日本有線大賞』と『第54回日本レコード大賞』で新人賞を受賞しました。

聞く人の心に響くみさきさんの歌声が、大槌町をますます元気にしてくれそうです。

Pickup 大槌町では生涯学習によるまちづくりを推進しています

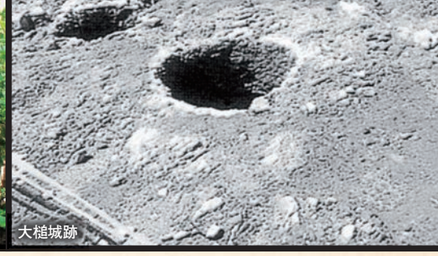
大槌町では、町広報誌、チラシ、ホームページ等を活用して生涯学習として、イベント等の周知を図るとともに、講演会の内容を対象者に配布することで生涯学習の意欲喚起に努めております。また、災害復興計画を見据えながら、生涯学習推進計画の見直し等を行い、まちづくりにもつなげていきます。

■主なイベント　●町民文化祭　●郷土芸能祭　●大槌町チャレンジデー　●高齢者生きがいセミナー　●子育てサポーター養成講座　●マリンランド自然体験塾　●対人スキルアップ専門研修講座　●中高年のためのいきいきスポーツ大会　●おおづちの自然と歴史体感ウォーキング

金沢御山大盛之図

宝暦・天明飢饉の供養塔

前川善兵衛歴代の墓地


大槌城跡

おおつちの歴史

縄文から江戸時代

縄文早期
縄文中期
縄文晩期
弥生時代後期
奈良・平安時代

文応2（一二六一）
建武元（一三三四）
永享9（一四三七）
天正19（一五九一）
慶長5（一六〇〇）
慶長16（一六一一）
慶長18（一六一三）
元和2（一六一六）
元和4（一六一八）
寛永元（一六二四）
寛永9（一六三二）
寛永19（一六四二）
万治2（一六五九）
寛文年間中（一六七〇～一六七三）
天和2（一六八二）
元禄5（一六九二）
元禄14（一七〇一）
宝永3（一七〇六）
宝永4（一七〇七）
享保元（一七一六）
享保5（一七二〇）
享保11（一七二六）
享保17（一七三二）
元文元（一七三六）
元文3（一七三八）
寛保元（一七四一）
寛保3（一七四三）
宝暦3（一七五三）
宝暦8（一七五八）
宝暦13（一七六三）
明和元（一七六四）
明和2（一七六五）
安永4（一七七五）
安永7（一七七八）
天明3（一七八三）
天明6（一七八六）
寛政3（一七九三）
寛政11（一八〇〇）
享和元（一八〇一）
享和2（一八〇二）
文化3（一八〇六）
文政6（一八二三）
弘化4（一八四七）
嘉永2（一八四九）
嘉永6（一八五三）
安政2（一八五五）
慶応元（一八六五）

崎山弁天遺跡から早期末葉の尖底深鉢土器出土
夏本、赤浜Ⅱ遺跡から多数の竪穴住居跡検出
櫓沢遺跡から精製土器が多数出土
弥生時代後期の住居跡が夏本遺跡から検出
夏本遺跡から八世紀前半の住居跡を発見
沢山遺跡から平安時代の住居跡を検出
明空上人が光願寺を草創したとされる
大槌氏が大槌城を築城したとされる
大槌孫三郎が遠野阿曽沼氏を攻める
永享の乱起こる
九戸正実の乱に大槌孫八郎広信が兵六十人率いて南部信直に参陣
大槌孫八郎、和賀一揆鎮圧に参陣
三陸沿岸大地震・大津波あり
大槌孫八郎政貞失脚
大槌孫八郎政貞奥瀬家に蟄居中に自刃
大槌氏滅亡
金沢村の助右衛門が安瀬ヶ沢の金山草分（試掘）を願い出て許可される
大槌城代を廃し代官を置く。大槌代官所が設置される（初代代官・針清七）
大槌代官が二人制となる
南部の命により大槌城を売却
寛文年間中に大槌村、小鎚村の境界紛争起こる
小鎚村にきりしたん禁止の制札が建てられる
四日町（上町）の浄土宗見生山大念寺の開山
南部藩大槌に海辺奉行をおき、釜石に十分一取立役所をおく
前川善兵衛二代富永、九三十両を南部藩に献金
この年、三度大槌地方を洪水襲う
吉祥寺を古寺から引き移し現在の地に再建する
鳩崎稲荷から現在の地に神社を移遷、二渡神社と称す
小鎚神社、古明神の地から現在の城内の地に移遷
古廟山を開山した菊池慈泉が生まれる
牧庵鞭牛（二十三歳）が吉里吉里吉祥寺の活堂見牛（大到見牛）のもとで修業
向川原海龍山江岸寺が類焼。本尊以外全焼
南部藩主三十三代利視公が大槌巡見。前川善兵衛宅に宿す。この時の巡見で安渡浦を巡航し、珊瑚島を蓬莱島と名付ける
八日町（現本町）で大火事となる（八日町四九軒、向川原七軒、四日町二軒類焼。原因放火による）
正法寺三十世住職、東光良普大和尚（寂照軒）が大念寺に私塾を開く
日光東照宮修復の為、前川善兵衛四代富昌、藩より御用金七千五百両を命ぜられる
吉里吉里赤沼に法華経一字一石経塚を築造
菊池祖睛が現在の御社地に東梅社創立
牧庵鞭牛和尚が山田織笠から大槌に抜ける裏街道を開削
菊池祖睛が九州大宰府に至り天神社の分霊を奉持、東梅社に祀る
牧庵鞭牛和尚が御廟坂を開削。小鎚川に架橋する（橋供養あり）
牧庵鞭牛和尚が吉里吉里坂を吉祥寺和尚見牛大到と共に開削
天明の飢饉始まる
菊池慈泉が宝暦・天明両飢饉の餓死者の為に供養塔建てる
代官所物書の小川孫兵衛、「官職記」完成
前川家所有の御免石船「明神丸」の大修理
伊能忠敬が大槌海岸周辺を測量。藤屋に宿す
田鎖丹蔵が改良建網の「たんぞう」を完成させ、漁場開拓に乗り出す
菊池祖睛が大般若経六百巻を書写。この年、生身往生を遂げる
山師平助が南部藩から金沢金山の「草分け証文」（試掘）の許可を受ける
弘化四年の百姓一揆起こる
大槌村と吉里吉里村の両村海境を確認
嘉永六年の百姓一揆起こる（三閉伊一揆）
藩士新渡戸伝の計画による三本木（十和田）の原野開拓に、大槌から金崎家、後藤家、前川家、里舘家等が資金を提供
碇川新砲台場普請懸に前川善兵衛、芳賀惣兵衛が任命される

明治から現代

明治元（一八六八）
明治2（一八六九）
明治4（一八七一）
明治6（一八七三）
明治22（一八八九）
明治29（一八九六）
明治30（一八九七）
明治36（一九〇三）
明治42（一九〇九）
大正12（一九二三）
昭和8（一九三三）
昭和14（一九三九）
昭和20（一九四五）
昭和23（一九四八）
昭和25（一九五〇）
昭和27（一九五二）
昭和30（一九五五）
昭和33（一九五八）
昭和35（一九六〇）
昭和42（一九六七）
昭和43（一九六八）
昭和46（一九七一）
昭和47（一九七二）
昭和48（一九七三）
昭和50（一九七五）
昭和52（一九七七）
昭和56（一九八一）
昭和57（一九八二）
昭和58（一九八三）
昭和59（一九八四）
昭和62（一九八七）
平成2（一九九〇）
平成4（一九九二）
平成5（一九九三）
平成6（一九九四）
平成9（一九九七）
平成10（一九九八）
平成11（一九九九）
平成12（二〇〇〇）
平成13（二〇〇一）
平成14（二〇〇二）
平成15（二〇〇三）
平成16（二〇〇四）
平成17（二〇〇五）
平成18（二〇〇六）
平成19（二〇〇七）

大槌地方は松本藩（信州）戸田家の取締に属する
大槌通は江刺県治下に含まれる
大槌代官所保有諸品（半被・脚半・陣旗・燈灯・樫棒・脇差等）入札を江刺県に上申
大槌郵便取扱所開設
公立大槌小学校、黒澤武兵衛宅を借用、第一九中学区小鎚第八番小学校として開校
市町村制実施。小鎚村、大槌村、吉里吉里村合併新大槌町となる
大津波来襲（明治二十九年の三陸大津波）被害戸数六七二戸、死亡五九九人（津波損害高三二七、〇〇〇円余）
郡制実施により西南閉伊郡が上閉伊郡と改称、大槌町も郡内に含まれる
吉里吉里漁業組合設立認可される
大槌浦漁業組合設立認可される
大槌町御社地（現町名、大町）に、さけの人工孵化場が町営で創設され、大槌川、小鎚川におけるさけの人工孵化放流事業を開始
大槌郵便局電話交換業務開始
大地震、大津波来襲。浪の高さ十三尺。溺死者六十二人、流失倒壊戸数六二二戸、三陸大津波
山田線大槌釜石間工事完了し、全線開通岩手県医薬連が大槌病院を開設
釜石、米国海軍の艦砲射撃と空襲受ける
大槌町も艦載機の襲撃受ける
大槌町および金沢村農業協同組合設立
大槌病院が県営に移管、県立大槌病院と改称
社団法人大槌商工会創立
大槌町教育委員会発足
大槌町、金沢村と合併
陸中海岸国立公園指定
大槌魚市場完成
チリ地震津波襲来
円満融和と飛躍を象徴とした町章が決まる
筋山道路開通
国道45号古廓坂トンネル開通
リアス・シーニックライン開通
大槌・赤浜・吉里吉里の三漁協が合併し、大槌町漁業協同組合発足
国道45号全線開通
町民憲章、町民歌、新大槌小唄決まる
県道大槌～小国間開通
大槌川鮭捕獲六三〇四九尾で本州一となる
東京大学海洋研究所開所
井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム
観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典
桜木町裏山山林火災で被害額一億三千万円
吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される
東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会
町制施行百周年記念式典
国道45号大槌バイパス開通
三陸・海の博覧会協賛事業として「おおつち海洋性動物展」開催
郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン
キャラクターマークの愛称を「おおちゃん」に決定
三陸地方拠点都市地域の指定を受ける
平成九年「第十七回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定
町の魚を「さけ」に決定
第十七回全国豊かな海づくり大会天皇皇后両陛下ご臨席の下開催
浪板海岸が環境庁「日本の水浴場五五選」に選定
広域消防の実施
大槌町公共下水道通水式
総合研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催（イトヨ確認）
おおちゃんネットワーク稼働
飛内山国有林火災。約二十四ヘクタール焼失
アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホームステイ交流開始
町立図書館開館
自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催
釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着工
大槌港灯台点灯五十周年
吉里吉里小学校新校舎落成
釜石広域風力発電事業ウインドファーム始動
岩手県植樹祭開催
フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印
町村合併五十周年記念式典
新山展望台完成
小鎚川水門概成管理受託開始式
源水川の淡水型イトヨの天然記念物に指定される
赤浜・浪板児童館閉館、金澤保育所閉所夜行高速バス「遠野・釜石号」運行開始

御社地

旧大槌街道

幕末の緊張を伝える碇川砲台場跡

夏本遺跡から多数の竪穴住居跡を発見

大槌代官所跡近世の上水道跡を検出

金糞平の山桜

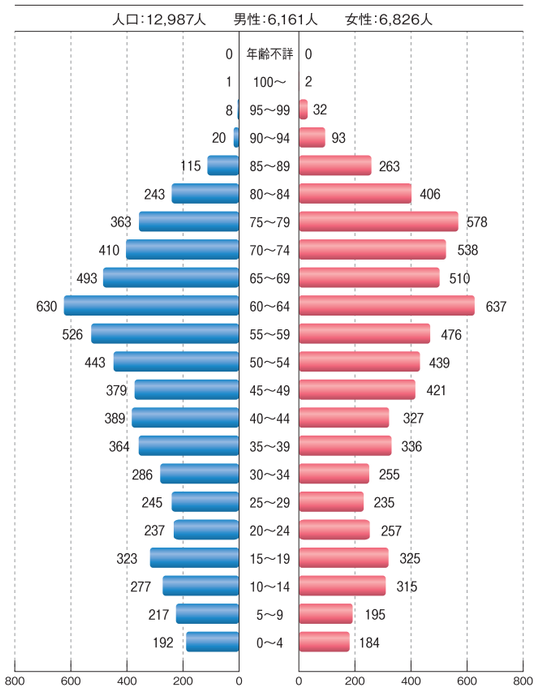
国道45号バイパス開通式

全国豊かな海づくり大会記念御製碑

統計資料

人口ピラミッド ［単位:人、世帯］ 平成25年2月28日現在

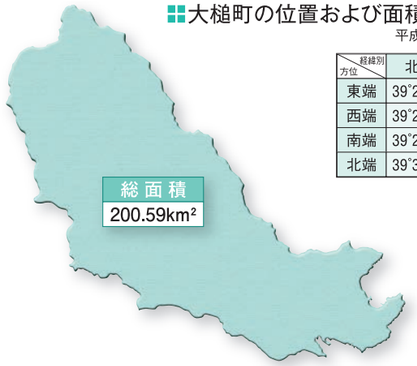
人口:12,987人　男性:6,161人　女性:6,826人



資料:平成23年 岩手県人口移動報告年報

大槌町の位置および面積 ［単位:度・分・秒］

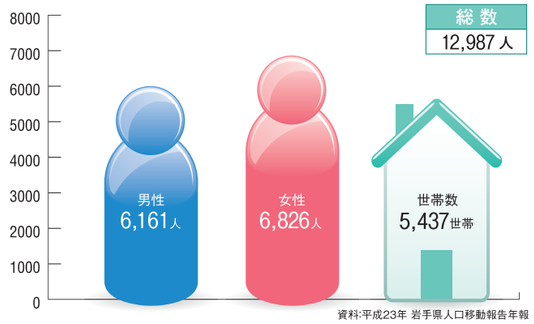
平成24年10月1日現在



経緯別 / 方位	北緯	東経
東端	39°22′55	141°58′11
西端	39°28′43	141°42′08
南端	39°20′38	141°53′00
北端	39°31′45	141°44′54

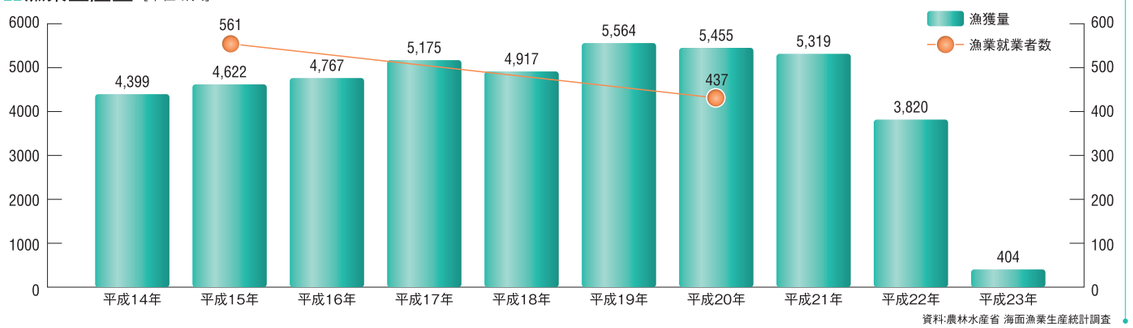
資料:国土地理院

人口・世帯数 ［単位:人、世帯］ 平成25年2月28日現在



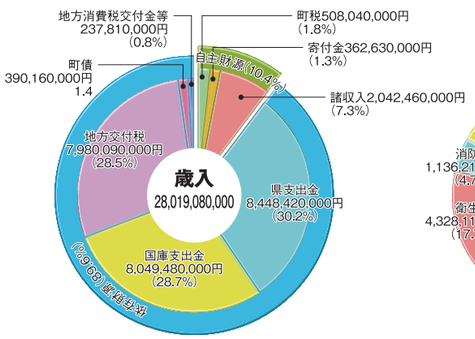
資料:平成23年 岩手県人口移動報告年報

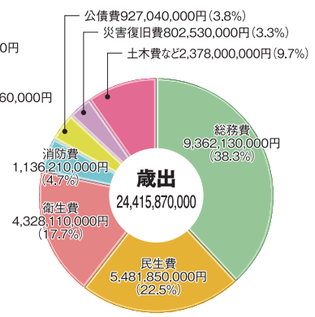
漁業生産量 ［単位:t、人］



資料:農林水産省 海面漁業生産統計調査

歳入および歳出 ［単位:円、%］ 平成23年度





資料:総務部財政課

小・中・高等学校児童生徒数 ［単位:人］

平成25年2月1日現在

区分	児童・生徒数		
	総数	男子	女子
総数	1207	587	620
大槌小学校	199	114	85
大槌北小学校	187	89	98
安渡小学校	34	15	19
赤浜小学校	18	12	6
吉里吉里小学校	118	50	68
小計	556	280	276
大槌中学校	266	122	144
吉里吉里中学校	84	47	37
小計	350	169	181
大槌高等学校	301	138	163
小計	301	138	163

資料:学校基本調査、学務課

行政

副町長　大水 敏弘

副町長　佐々木 彰

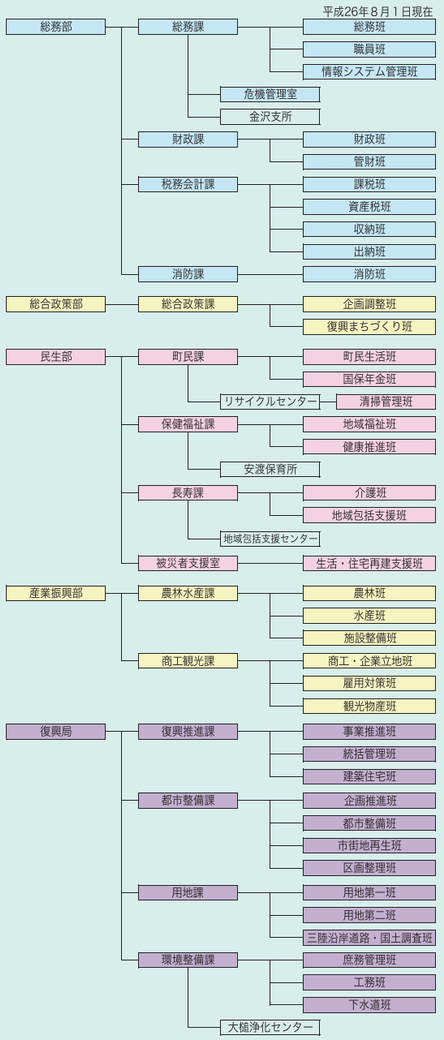
町　長　碇川　豊

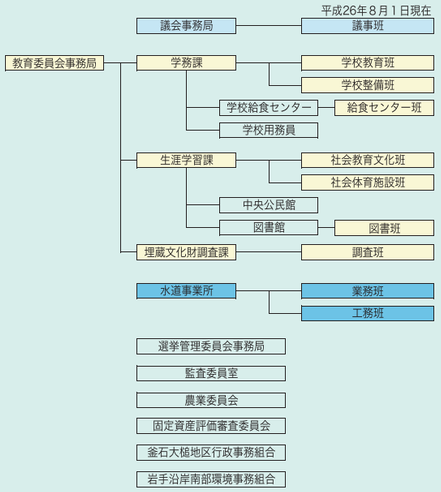
教育長　伊藤 正治

行政の最大の使命は住民へのサービスです。これからますます進む国際化や情報化、少子高齢化社会などに伴って、行政に対するニーズは複雑多様化してきます。住民のニーズに対応し、充実した行政サービスと行政運営の体制づくりに努め、住民主体のまちづくりを目指します。

組織図

平成26年8月1日現在





議会

議　長　阿部 六平

副議長　阿部 義正

大槌町議会 議員名簿

1番　三浦　諭	7番　小松　則明	12番　野崎　重太
2番　芳賀　潤	8番　里舘　裕子	13番　阿部　義正
3番　東梅　守	9番　金崎　悟朗	14番　阿部　六平
5番　阿部　俊作	10番　後藤　高明	
6番　東梅　康悦	11番　岩崎　松生	

姉妹都市「フォートブラッグ市」

姉妹都市締結協定書

平成十七年十月十五日、大槌町とアメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市は、相互の信頼と尊敬を礎とし、これまでの友好関係をさらに推進するため姉妹都市の締結を行いました。

フォートブラッグ市は、人口約七千人、観光とサケを中心とした水産業を基幹産業とする街です。カリフォルニア州サンフランシスコ市から北に約二百四十キロ、大槌町と緯度がほぼ同じ三十九度二十分の場所に位置しています。

「世界最大のサケバーベキュー」を催すこの街の存在を知ったのは、平成九年に大槌で開催された第十七回全国豊かな海づくり大会の前年のプレイベントの時でした。海づくり大会に同市の市長を招聘し、その後平成十四年から両市町の中高生がホームステイなどで交流を温め、平成十七年、フォートブラッグ市長夫妻が大槌町を訪れ姉妹都市締結の調印式を行いました。

この締結により、大槌町とフォートブラッグ市の絆がさらに強固なものとなり、今後ますます進んでいく国際化の時代に向けて町の貴重な第一歩となりました。

また、中・高生によるホームステイでは、お互いの生活文化や言葉に触れることで、子どもたちの幅広い視野を培い、国際化を視野に入れた今後の学校教育の現場においてもこれらの交流は町の大きな財産となり、将来への可能性となることが期待されます。

町民憲章

［昭和48年10月制定］

一、自然を愛し自然を
　大切にしましょう
一、産業を興し豊かなまちを
　つくりましょう
一、健康できまりある
　生活をしましょう
一、香り高い郷土の文化を
　育てましょう
一、安全で住みよいまちを
　つくりましょう

大槌町民歌

［昭和48年10月制定］

作詞　滝田常晴
補作　桜田史郎
作編曲　押尾　司

1
太平洋に　のぼる陽よ
入り船出船　海の幸
山のこだまも　さわやかに
生きるよろこび　はつらつと
大槌大槌　このまちを
力あわせて　築こうよ
片寄せ波の　浜風に
根を張る松の　たくましさ
進取の気魄　あふれわく
みのるしあわせ　もろともに
大槌大槌　このまちを
日々にいそしみ　拓こうよ

2
大槌小鎚　水清く
流れにおどる　鮭の群れ
心ゆたかな　人の和に
夢をあつめて　うるわしく
大槌大槌　このまちの
ゆくてたのしく　進もうよ

町の花
新山つつじ
［昭和48年10月制定］

町の鳥
かもめ
［昭和48年10月制定］

町の魚
さけ
［平成９年８月制定］

町の木
けやき
［昭和48年10月制定］

イメージキャラクター
おおちゃん

大槌町のイニシャル「O」と大槌町の「槌」をモチーフに擬人化し、恵まれた自然環境と、素敵な心のエネルギーを基に「打ち出の大槌」から文化・教育・産業などすべての面で、限りない飛躍の力が大槌町に振り出されることをイメージしたもので、大槌町ＣＩ計画により平成６年１月に制定されました。

町章

大槌町の「大」を「鎚」の中に図案化し、町の円満融和と飛躍を表したもので、昭和35年８月に制定されました。

大槌タウンマップ

大槌までのアクセス

鉄道	◆釜石線 花巻→釜石	◆山田線 盛岡→宮古	◆大船渡線 一ノ関→気仙沼		
自動車	浦和IC→花巻JCT→宮守IC	仙人峠道路	釜石→大槌		
夜行高速バス 遠野・釜石号	池袋駅西口7のりば→新花巻駅前→釜石駅前	大槌バイパス	吉里吉里一丁目		
けせんライナー	池袋駅西口7のりば→一関駅→陸前高田市→盛→釜石駅前				
飛行機	札幌 花巻空港 約60分	名古屋 花巻空港 約60分	大阪 花巻空港 約70分	福岡 花巻空港 約120分	

岩手県・近隣県からのアクセスイメージ

鉄道・飛行機でのアクセスイメージ